

## ごあいさつ



港区長 武井雅昭

昨今、技術革新のさらなる進展やライフスタイルの多様化など、家庭を取り巻く環境が大きく変化する中で、核家族化の進行や地域のつながりの希薄化、子どもへの虐待など、様々な問題が社会全体の課題となっています。

また、昨年からの新型コロナウイルス感染症の影響により、感染拡大防止と社会生活を両立させる新たな日常が浸透し、これまでにない行動変容が求められています。

このような中、港区では、妊娠・出産・育児期から幼児期、学齢期と切れ目なく子どもの健やかな育ちを支え、「未来を担うすべての子どもたちが、健やかに成長できる地域社会」を実現するため、全力で取り組んでまいりました。

区立小中学校における教育のデジタル化の推進や特別支援教育の充実、出産費用助成金の引き上げ、子ども家庭支援センター・児童相談所・母子生活支援施設の複合施設である港区子ども家庭総合支援センターの開設など、子どもの教育環境の整備と子育て支援施策を、積極的に進めています。

令和2年3月、幼稚園教育要領等の改訂に伴い、幼児の育ちと学びを確実に小学校へとつなぐため、「小学校入学前教育カリキュラム」を改訂しました。また小学校入学前に家庭で取り組んでいただきたいこととお知らせする、5歳児のいる家庭向けリーフレットについても改訂を行い、活用してまいりました。

そしてこのたび、平成29年3月に策定した、3歳児・4歳児のいる家庭向けの「家庭で大切にしたいことハンドブック」を改訂いたしました。3歳児、4歳児の育ちと学びについて、写真やイラストを交えながら、より皆さんにとって分かりやすい内容となるようまとめています。

今回の改訂では、子どもたちが幼児期にふさわしい経験を十分に得られるよう、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」として、遊びや生活の中で育んでほしい資質や能力について具体的に示しています。このハンドブックが家庭教育の支援の一つとなり、保育園・幼稚園・認定こども園などと家庭が連携した、質の高い幼児教育の実現に寄与することを心から願っております。

今後も、港区の全ての未来ある子どもたちが、健やかで幸せな幼少期を過ごすことができるよう、また「子育てするなら港区」「教育の港区」と評価されるよう、区民の皆さんが安心して子育てができる様々な施策に取り組んでまいります。

## ごあいさつ



港区教育委員会教育長 浦田幹男

幼児期は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な時期であり、家庭生活と幼稚園・保育園・認定こども園などの生活は、切り離して考えることはできないものです。各園と家庭が発達の見通しをもち、連携して育ちを支えることで、幼児の園における日々の体験が家庭へフィードバックされ、子どもたちのよりよい成長につながっていきます。

幼児期は本来、人と人との関わりなどふれあいの中で人間形成に向け必要なことを学ぶ時期ですが、新型コロナウイルス感染症の流行により、マスクの着用などのために大人の表情が見えにくく、様々な人とのふれあいが制限される状況にあります。しかしそのような状況下でも、新しい生活様式を踏まえ、幼児の健全な成長と発達のために、園と家庭が連携し質の高い幼児期の教育を行うことが重要です。

港区では、幼児教育から小学校教育へのさらなる円滑な接続を図ることを目的とし、「小学校入学前教育カリキュラム」を令和2年3月に改訂しました。生きる力の基礎を育み、新しい時代を担う子どもたちの資質・能力の育成を目指して改訂された、幼稚園教育要領や保育所保育指針、学習指導要領等の改訂の趣旨に則った内容となっており、5歳児のいる全ての家庭に向けたリーフレットについても改訂し、御活用いただいています。

これに基づき、このたび、3、4歳児がいる御家庭を対象とした「家庭で大切にしたいことハンドブック」も改訂いたしました。園と連携しながら家庭教育が一層充実されることを目指した内容となっております。

子どもに向けるまなざしや言葉、関わり方などを考えるきっかけにいただき、御家庭でも生活の様々な場面において、幼児の心を豊かにする体験を増やしてほしいと思っております。

保護者の皆様におかれましては、この時期ならではの子どもの成長や子育ての喜びを感じていただくとともに、園と家庭がさらに連携することで、港区の幼児教育が一層充実し、幼児教育から小学校教育への円滑な接続につながることを、心から願っております。